

| 改正   | 現行  | 備考             |
|--|---|----------------|
| <p><b>第1章 総則</b></p> <p>1-22 建設副産物</p> <p>7 受注者は、「建設リサイクル法」に基づく特定建設資材（新材又は再生材）、土砂、砕石（新材又は再生材）、その他の再生資材を工事現場に搬入する場合には、「建設リサイクルガイドライン」に基づき、建設副産物に係る情報入力システム※により「再生資源利用計画書」を所定の様式にて作成し、施工計画書に含め、工事監督員に提出し、<u>提出時にその内容を説明</u>しなければならない。</p> <p>8 受注者は、建設発生土、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材（木材製品等）、建設汚泥、建設混合廃棄物、金属くず、廃プラスチック、紙くず、アスベスト（飛散型）等を工事現場から排出する場合には、「建設リサイクルガイドライン」に基づき、建設副産物に係る情報入力システム※により「再生資源利用促進計画書」を作成し、施工計画書に含め、工事監督員に提出し、<u>提出時にその内容を説明</u>しなければならない。</p> <p><u>9 受注者は再生資源利用（促進）計画書を書面または映像（デジタルサイネージ）により工事現場の見やすい場所へ掲示するとともに、可能な限りインターネットの利用により公表するよう努めなければならない。</u></p> <p><u>10 受注者は、工事完成後、建設廃棄物の処理の実施状況を記録し、再生資源利用実施計画書及び再生資源利用促進実施書を建設副産物に係る情報入力システム※により作成し、工事監督員に提出するとともに、5年間保管しなければならない。また、工事監督員から請求があったときは、当該実施状況を報告しなければならない。</u></p> | <p>1-22 建設副産物</p> <p>7 受注者は、「建設リサイクル法」に基づく特定建設資材（新材又は再生材）、土砂（新材又は再生材）、砕石（新材又は再生材）、その他の再生資材を工事現場に搬入する場合には、「建設リサイクルガイドライン」に基づき、建設副産物に係る情報入力システム※により「再生資源利用計画書」を所定の様式にて作成し、施工計画書に含め、工事監督員に提出しなければならない。</p> <p>8 受注者は、建設発生土、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材（木材製品等）、建設汚泥、建設混合廃棄物、金属くず、廃プラスチック、紙くず、アスベスト（飛散型）等を工事現場から排出する場合には、「建設リサイクルガイドライン」に基づき、建設副産物に係る情報入力システム※により「再生資源利用促進計画書」を作成し、施工計画書に含め、工事監督員に提出しなければならない。</p> <p>9 受注者は、工事完成後、建設廃棄物の処理の実施状況を把握し、再生資源利用実施計画書及び再生資源利用促進実施書を建設副産物に係る情報入力システム※により作成し、工事監督員に提出するとともに、1年間保管しなければならない。</p> | <p>字句の訂正追加</p> |

# 第7章 法面工

表7-1

植生工法適応条件表 1/3

| 植生工  | 生芝  | 種子散布工   | 腐植酸種子散布工  | 有機材種子散布工  |
|--|---|---|---|---|
| 適用土質   | 細粒分まじりれき (GF)<br>砂 (細粒分5~15%のS-F・S-FG)<br>注1)   |   |   | 細粒分まじりれき (GF)   |
| 地盤材料の工学的分類法 (JGS 0051-2020) の中分類名称 [中分類記号]または [小分類記号]による | れき質砂 (細粒分5~15%のSG-F)<br>細粒分まじり砂 (SF)<br>シルト (M)<br>粘性土 (C)<br>有機質土 (O)<br>火山灰質粘性土 (V) | シルト (M)<br>粘性土 (C)<br>有機質土 (O)<br>火山灰質粘性土 (V) | 細粒分まじり砂 (SF)<br>シルト (M)<br>粘性土 (C)<br>有機質土 (O)<br>火山灰質粘性土 (V) | 細粒分まじり砂 (SF)<br>シルト (M)<br>粘性土 (C)<br>有機質土 (O)<br>火山灰質粘性土 (V) |
| れき含有量注2)   | 0%~50%  | 0%~20%  | 0%~20%  | 0%~30%  |
| 土 壤 硬 度  | 10mm~27mm未満   | 10mm~23mm未満                                   | 10mm~23mm未満   | 10mm~23mm未満   |
| 勾 配  | 0.8割以上  | 1.2割以上  | 0.8割以上  | 0.8割以上  |
| 法面垂直高  | —   | 30m以下   | 30m以下   | 30m以下   |
| 有機含有量  | —   | 3%以上  | 3%以上  | 3%未満  |
| 土 壤 酸 度 (pH)   | 4.0~6.5 (kcl)<br>4.5~7.0 (H <sub>2</sub> O)   | 4.0~6.5 (kcl)<br>4.5~7.0 (H <sub>2</sub> O)   | 4.0~6.5 (kcl)<br>4.5~7.0 (H <sub>2</sub> O)                   | 4.0~6.5 (kcl)<br>4.5~7.0 (H <sub>2</sub> O)                   |
| リン酸吸収力mg /土砂100g中  | 1700以下  | 700以下   | 1700以下  | 1700以下  |
| 吹付用ホース延長注8)・9)   | —   | 0~200m  | 0~200m  | 0~120m  |
| 施工適期注6)  | 施工完了時期が日平均気温-5℃以上までとする。ただし、凍結している法面への施工は行わないこととする                                     | 施工完了後、日平均気温5℃以上が60日間確保されると予想される時期まで           | 施工完了後、日平均気温5℃以上が60日間確保されると予想される時期まで                           | 施工完了後、日平均気温5℃以上が60日間確保されると予想される時期まで                           |

- 注 1) 土質分類の細粒分とは0.075mmふるいを通過する細粒土(シルト、粘土)の量をいう。  
 2) れき含有量のれきとは2mm以上75mm以下の粗粒土(細れき、中れき、粗れき)をいう。  
 3) 適用可能な工法のうち経済的な工法を標準とする。  
 4) 現地調査の結果、当初選定した工法が本表の適応条件に合わない場合は、工法について設計変更し必要に応じて各事業の設計要領や技術指針等により対策を別途考慮すること。  
 5) 土壌酸度が適応条件からはずれる場合には、土壌酸度矯正のための補助工法を別途考慮すること。  
 6) 施工適期を求めるには近隣地区の気象データ(平均値)と現地の外気温を比較、考慮し、行うこと。  
 7) 人工芝を使用する場合は、個々の製品の品質と現場の土質、土壌に適応することを確認し使用すること。  
 8) 各植生工法の吹付用ホース延長について、記載基準を超える場合は、別途協議する。  
 9) 植生工法の判定時に、「吹付用ホース延長を除く適応条件」は植生基材吹付工(土砂系)の基準を満たすが、「吹付用ホース延長の適応条件」の基準により選択不可となる場合、同等厚の植生基材吹付工(有機質系)を選択するものとする。

表7-1

植生工法適応条件表 1/3

| 植生工                               | 生芝  | 種子散布工   | 腐植酸種子散布工  | 有機材種子散布工  |
|-----------------------------------|---|---|---|---|
| 適用土質                              |   |   |   |   |
| ( )内は細粒土量 (75μmふるいを通過するもの)の重量比をいう | 礫質土 (15%以上50%未満)<br>砂質土 (15%以上50%未満)<br>シルト (50%以上)<br>粘性土 (50%以上)<br>有機質土 (50%以上)<br>火山灰質粘性土 (50%以上) | シルト (50%以上)<br>粘性土 (50%以上)<br>有機質土 (50%以上)<br>火山灰質粘性土 (50%以上) | 砂質土 (15%以上50%未満)<br>シルト (50%以上)<br>粘性土 (50%以上)<br>有機質土 (50%以上)<br>火山灰質粘性土 (50%以上) | 礫質土 (15%以上50%未満)<br>砂質土 (15%以上50%未満)<br>シルト (50%以上)<br>粘性土 (50%以上)<br>有機質土 (50%以上)<br>火山灰質粘性土 (50%以上) |
| レキ含有量                             | 0%~50%  | 0%~20%  | 0%~20%  | 0%~30%  |
| 土 壤 硬 度                           | 10mm~27mm未満   | 10mm~23mm未満   | 10mm~23mm未満   | 10mm~23mm未満   |
| 勾 配                               | 0.8割以上  | 1.2割以上  | 0.8割以上  | 0.8割以上  |
| 法面垂直高                             | —   | 30m以下   | 30m以下   | 30m以下   |
| 有機含有量                             | —   | 3%以上  | 3%以上  | 3%未満  |
| 土 壤 酸 度 (pH)                      | 4.0~6.5 (kcl)<br>4.5~7.0 (H <sub>2</sub> O)   | 4.0~6.5 (kcl)<br>4.5~7.0 (H <sub>2</sub> O)                   | 4.0~6.5 (kcl)<br>4.5~7.0 (H <sub>2</sub> O)                                       | 4.0~6.5 (kcl)<br>4.5~7.0 (H <sub>2</sub> O)   |
| リン酸吸収力mg /土砂100g中                 | 1700以下  | 700以下   | 1700以下  | 1700以下  |
| 吹付用ホース延長                          | —   | 0~200m  | 0~200m  | 0~120m  |
| 施工適期                              | 施工完了時期が日平均気温-5℃以上までとする。ただし、凍結している法面への施工は行わないこととする   | 施工完了後、日平均気温5℃以上が60日間確保されると予想される時期まで                           | 施工完了後、日平均気温5℃以上が60日間確保されると予想される時期まで   | 施工完了後、日平均気温5℃以上が60日間確保されると予想される時期まで   |

- 1) 土質分類の細粒土量とは75μmふるいを通過する細粒土(シルト、粘土、コロイド)の量をいう。  
 2) レキ含有量のレキとは2mm以上75mm以下の粗粒土(細礫、中礫、粗礫)をいう。  
 3) 現地調査の結果、適応条件に合わない場合、設計変更を行う。  
 4) 土壌酸度が適応条件からはずれる場合には、土壌酸度矯正のための補助工法を別途考慮すること。  
 5) 施工適期を求めるには近隣地区の気象データ(平均値)と現地の外気温を比較、考慮し、行うこと。  
 6) 人工芝を使用する場合は、個々の製品の品質と現場の土質、土壌に適応することを確認し使用すること。  
 7) 各植生工法の吹付用ホース延長について、記載基準を超える場合は、別途協議する。

表内字句・数値の修正

字句の修正  
 字句の修正  
 順番の変更  
 字句の修正

改正

現行

備考

表7-1

植生工法適応条件表 2/3

| 植生工  | 客土種子吹付工 t=2cm                               | 客土種子吹付工 t=3cm   | 植生基材吹付工 (土砂系) t=3cm   | 植生基材吹付工 (土砂系) t=5cm  |
|--|---|---|---|--|
| 適用土質   |   |   | れき(中れき(粒径19mm)以下かつ細粒分5~15%のG-F-G-FS)                        |  |
| 地盤材料の工学的分類法 (JGS 0051-2020) の中分類名称 [中分類記号]または [小分類記号]による | 細粒分まじりれき [GF]<br>砂(細粒分5~15%のS-F・S-FG)       | 砂れき(細粒分5~15%のGS-F)<br>細粒分まじりれき [GF]<br>砂(細粒分5~15%のS-F・S-FG) | 砂れき(細粒分5~15%のGS-F)<br>細粒分まじりれき [GF]<br>砂(細粒分5~15%のS-F・S-FG) | れき [G]<br>砂れき [GS]<br>細粒分まじりれき [GF]<br>砂 [S]<br>れき質砂 [SG]<br>細粒分まじり砂 [SF]<br>シルト [M]<br>粘性土 [C]<br>有機質土 [O]<br>火山灰質粘性土 [M] |
| れき含有量 <sup>注2</sup>                                      | 0%~30%                                      | 0%~30%  | 0%~30%  | 30%~50%  |
| 土 壤 硬 度  | 10mm~27mm未満                                 | 23mm~27mm未満   | 23mm~27mm未満   | 27mm~30mm未満  |
| 勾 配  | 0.8割以上                                      | 0.8割以上  | 0.8割以上  | 0.8割以上   |
| 法面垂直高  | 25m以下                                       | 25m以下   | 80m以下   | 80m以下  |
| 有機含有量  | —   | —   | —   | —  |
| 土 壤 酸 度 (pH)   | 4.0~6.5 (kcl)<br>4.5~7.0 (H <sub>2</sub> O) | 4.0~6.5 (kcl)<br>4.5~7.0 (H <sub>2</sub> O)                 | 4.0~6.5 (kcl)<br>4.5~7.0 (H <sub>2</sub> O)                 | 4.0~6.5 (kcl)<br>4.5~7.0 (H <sub>2</sub> O)  |
| リン酸吸収力mg /土砂100g中  | —   | —   | —   | —  |
| 吹付用ホース延長 <sup>注8-9</sup>                                 | 0~80m                                       | 0~80m   | 0~80m   | 0~80m  |
| 施工適期 <sup>注6</sup>                                       | 施工完了後、日平均気温5℃以上が60日間確保されると予想される時期まで         | 施工完了後、日平均気温5℃以上が60日間確保されると予想される時期まで                         | 施工完了後、日平均気温5℃以上が60日間確保されると予想される時期まで                         | 施工完了後、日平均気温5℃以上が60日間確保されると予想される時期まで  |

- 注 1) 土質分類の細粒分とは0.075mmふるいを通過する細粒土(シルト、粘土)の量をいう。  
 2) れき含有量のれきとは2mm以上75mm以下の粗粒土(細れき、中れき、粗れき)をいう。  
 3) 適用可能な工法のうち経済的な工法を標準とする。  
 4) 現地調査の結果、当初選定した工法が本表の適応条件に合わない場合は、工法について設計変更し必要に応じて各事業の設計要領や技術指針等により対策を別途考慮すること。  
 5) 土壌酸度が適応条件からはずれる場合には、土壌酸度矯正のための補助工法を別途考慮すること。  
 6) 施工適期を求めるには近隣地区の気象データ(平均値)と現地の外気温を比較、考慮し、行うこと。  
 7) 人工芝を使用する場合は、個々の製品の品質と現場の土質、土壌に適合することを確認し使用すること。  
 8) 各植生工法の吹付用ホース延長について、記載基準を超える場合は、別途協議する。  
 9) 植生工法の判定時に、「吹付用ホース延長を除く適応条件」は植生基材吹付工(土砂系)の基準を満たすが、「吹付用ホース延長の適応条件」の基準により選択不可となる場合、同等厚の植生基材吹付工(有機質系)を選択するものとする。

表7-1

植生工法適応条件表 2/3

| 植生工                               | 客土種子吹付工 t=2cm   | 客土種子吹付工 t=3cm   | 植生基材吹付工 (土砂系) t=3cm   | 植生基材吹付工 (土砂系) t=5cm   |
|-----------------------------------|---|---|---|---|
| 適用土質                              |   |   |   |   |
| ( )内は細粒土量 (75μmふるいを通過するもの)の重量比をいう | 礫質土(15%以上50%未満)<br>砂 土(5%以上15%未満)<br>砂質土(15%以上50%未満)<br>シルト(50%以上)<br>粘性土(50%以上)<br>有機質土(50%以上)<br>火山灰質粘性土(50%以上) | 砂 礫(5%以上15%未満)<br>礫質土(15%以上50%未満)<br>砂 土(5%以上15%未満)<br>砂質土(15%以上50%未満)<br>シルト(50%以上)<br>粘性土(50%以上)<br>有機質土(50%以上)<br>火山灰質粘性土(50%以上) | 中 礫(5%以上15%未満)<br>細 礫(5%以上15%未満)<br>砂 礫(5%以上15%未満)<br>礫質土(15%以上50%未満)<br>砂 土(5%以上15%未満)<br>砂質土(15%以上50%未満)<br>シルト(50%以上)<br>粘性土(50%以上)<br>有機質土(50%以上)<br>火山灰質粘性土(50%以上) | 粗 礫(15%未満)<br>中 礫(5%未満)<br>細 礫最大粒径5mm(5%未満)<br>砂 最大粒径2mm(5%未満)<br>礫質土(15%以上50%未満)<br>砂 土(5%以上15%未満)<br>砂質土(15%以上50%未満)<br>シルト(50%以上)<br>粘性土(50%以上)<br>有機質土(50%以上)<br>火山灰質粘性土(50%以上) |
| レキ含有量                             | 0%~30%  | 0%~30%  | 0%~30%  | 30%~50%   |
| 土 壤 硬 度                           | 10mm~27mm未満   | 23mm~27mm未満   | 23mm~27mm未満   | 27mm~30mm未満   |
| 勾 配                               | 0.8割以上  | 0.8割以上  | 0.8割以上  | 0.8割以上  |
| 法面垂直高                             | 25m以下   | 25m以下   | 80m以下   | 80m以下   |
| 有機含有量                             | —   | —   | —   | —   |
| 土 壤 酸 度 (pH)                      | 4.0~6.5 (kcl)<br>4.5~7.0 (H <sub>2</sub> O)   | 4.0~6.5 (kcl)<br>4.5~7.0 (H <sub>2</sub> O)   | 4.0~6.5 (kcl)<br>4.5~7.0 (H <sub>2</sub> O)   | 4.0~6.5 (kcl)<br>4.5~7.0 (H <sub>2</sub> O)   |
| リン酸吸収力mg /土砂100g中                 | —   | —   | —   | —   |
| 吹付用ホース延長                          | 0~80m   | 0~80m   | 0~80m   | 0~80m   |
| 施工適期                              | 施工完了後、日平均気温5℃以上が60日間確保されると予想される時期まで   | 施工完了後、日平均気温5℃以上が60日間確保されると予想される時期まで   | 施工完了後、日平均気温5℃以上が60日間確保されると予想される時期まで   | 施工完了後、日平均気温5℃以上が60日間確保されると予想される時期まで   |

- 1) 土質分類の細粒土量とは75μmふるいを通過する細粒土(シルト、粘土、コロイド)の量をいう。  
 2) レキ含有量のレキとは2mm以上75mm以下の粗粒土(細礫、中礫、粗礫)をいう。  
 3) 現地調査の結果適応条件に合わない場合、設計変更を行う。  
 4) 土壌酸度が適応条件からはずれる場合には、土壌酸度矯正のための補助工法を別途考慮すること。  
 5) 施工適期を求めるには近隣地区の気象データ(平均値)と現地の外気温を比較、考慮し、行うこと。  
 6) 人工芝を使用する場合は、個々の製品の品質と現場の土質、土壌に適合することを確認し使用すること。  
 7) 植生工法判定時に、「吹付用ホース延長を除く適応条件」は植生基材吹付工(土砂系)の基準を満たすが、「吹付用ホース延長の適応条件」の基準により選択不可となる場合、同等厚の植生基材吹付工(有機質系)を選択するものとする。  
 8) 各植生工法の吹付用ホース延長について、記載基準を超える場合は、別途協議する。

表内字句・数値の修正

字句の修正  
字句の修正  
順番の変更  
字句の修正

改正

現行

備考

表7-1

植生工法適応条件表 3/3

| 植生工  | 植生基材吹付工<br>(有機質系) t=3cm   | 植生基材吹付工<br>(有機質系) t=5cm                     | 植生基材吹付工<br>(有機質系) t=8cm                        |
|--|---|---|--|
| 適用土質<br><br>地盤材料の工学的分類法<br>(JGS 0051-2020)<br>の中分類名称<br>[中分類記号]または<br>(小分類記号)による | 軟岩 I<br>強風化・亀裂面風化<br>クラック間隔5cm未満<br>レキ最大粒径75mm (5%未満)<br>れき (G) | 軟岩 I・II<br>亀裂面風化<br>クラック間隔5cm～15cm未満        | 軟岩 II・中硬岩・硬岩<br>亀裂面風化<br>クラック間隔15cm～50cm<br>未満 |
| れき含有量 <sup>注2</sup>  | —   | —   | —  |
| 土 壤 硬 度  | 27mm以上  | 30mm以上                                      | 30mm以上   |
| 勾 配  | 0.8割以上  | 0.6割以上                                      | 0.6割以上   |
| 法面垂直高  | 80m以下   | 80m以下                                       | 80m以下  |
| 有機含有量  | —   | —   | —  |
| 土壌酸度(pH)   | 4.0～6.5 (kcl)<br>4.5～7.0 (H <sub>2</sub> O)                     | 4.0～6.5 (kcl)<br>4.5～7.0 (H <sub>2</sub> O) | 4.0～6.5 (kcl)<br>4.5～7.0 (H <sub>2</sub> O)    |
| リン酸吸収力mg<br>/土砂100g中   | —   | —   | —  |
| 吹付用ホース延長 <sup>注8・9</sup>   | 0～200m  | 0～200m                                      | 0～200m   |
| 施工適期 <sup>注6</sup>   | 施工完了後、日平均気温5℃<br>以上が60日間確保されると<br>予想される時期まで                     | 施工完了後、日平均気温5℃<br>以上が60日間確保されると<br>予想される時期まで | 施工完了後、日平均気温5℃<br>以上が60日間確保されると<br>予想される時期まで    |

- 注 1) 土質分類の細粒分とは0.075mmふるいを通過する細粒土(シルト、粘土)の量をいう。  
 2) れき含有量のれきとは2mm以上75mm以下の粗粒土(細れき、中れき、粗れき)をいう。  
 3) 適用可能な工法のうち経済的な工法を標準とする。  
 4) 現地調査の結果、当初選定した工法が本表の適応条件に合わない場合は、工法について設計変更し必要に応じて各事業の設計要領や技術指針等により対策を別途考慮すること。  
 5) 土壌酸度が適応条件からはずれる場合には、土壌酸度矯正のための補助工法を別途考慮すること。  
 6) 施工適期を求めるには近隣地区の気象データ(平均値)と現地の外気温を比較、考慮し、行うこと。  
 7) 人工芝を使用する場合は、個々の製品の品質と現場の土質、土壌に適合することを確認し使用すること。  
 8) 各植生工法の吹付用ホース延長について、記載基準を超える場合は、別途協議する。  
 9) 植生工法の判定時に、「吹付用ホース延長を除く適応条件」は植生基材吹付工(土砂系)の基準を満たすが、「吹付用ホース延長の適応条件」の基準により選択不可となる場合、同等厚の植生基材吹付工(有機質系)を選択するものとする。

表7-1

植生工法適応条件表 3/3

| 植生工  | 植生基材吹付工<br>(有機質系) t=3cm                               | 植生基材吹付工<br>(有機質系) t=5cm                     | 植生基材吹付工<br>(有機質系) t=8cm                        |
|--|---|---|--|
| 適用土質<br><br>( )内は細粒土量<br>(75μmふるいを<br>通過するもの)の<br>重量比をいう | 軟岩 I<br>強風化・亀裂面風化<br>クラック間隔5cm未満<br>レキ最大粒径75mm (5%未満) | 軟岩 I・II<br>亀裂面風化<br>クラック間隔5cm～15cm未満        | 軟岩 II・中硬岩・硬岩<br>亀裂面風化<br>クラック間隔15cm～50cm<br>未満 |
| れき含有量  | —   | —   | —  |
| 土 壤 硬 度  | 27mm以上  | 30mm以上                                      | 30mm以上   |
| 勾 配  | 0.8割以上  | 0.6割以上                                      | 0.6割以上   |
| 法面垂直高  | 80m以下   | 80m以下                                       | 80m以下  |
| 有機含有量  | —   | —   | —  |
| 土壌酸度(pH)   | 4.0～6.5 (kcl)<br>4.5～7.0 (H <sub>2</sub> O)           | 4.0～6.5 (kcl)<br>4.5～7.0 (H <sub>2</sub> O) | 4.0～6.5 (kcl)<br>4.5～7.0 (H <sub>2</sub> O)    |
| リン酸吸収力mg<br>/土砂100g中                                     | —   | —   | —  |
| 吹付用ホース延長   | 0～200m  | 0～200m                                      | 0～200m   |
| 施工適期   | 施工完了後、日平均気温5℃<br>以上が60日間確保されると<br>予想される時期まで           | 施工完了後、日平均気温5℃<br>以上が60日間確保されると<br>予想される時期まで | 施工完了後、日平均気温5℃<br>以上が60日間確保されると<br>予想される時期まで    |

- 1) 土質分類の細粒土量とは75μmふるいを通過する細粒土(シルト、粘土、コロイド)の量をいう。  
 2) れき含有量のれきとは2mm以上75mm以下の粗粒土(細礫、中礫、粗礫)をいう。  
 3) 現地調査の結果、適応条件に合わない場合は、設計変更を行う。  
 4) 土壌酸度が適応条件からはずれる場合には、土壌酸度矯正のための補助工法を別途考慮すること。  
 5) 施工適期を求めるには近隣地区の気象データ(平均値)と現地の外気温を比較、考慮し、行うこと。  
 6) 人工芝を使用する場合は個々の製品の品質と現場の土質、土壌に適合することを確認し使用すること。  
 7) 植生工法判定時に、「吹付用ホース延長を除く適応条件」は植生基材吹付工(土砂系)の基準を満たすが、「吹付用ホース延長の適応条件」の基準により選択不可となる場合、同等厚の植生基材吹付工(有機系)を選択するものとする。  
 8) 各植生工法の吹付用ホース延長について、記載基準を超える場合は、別途協議する。

表内字  
句・数値  
の修正

字句の  
修正  
字句の  
修正  
順番の  
変更  
字句の  
修正